

質問順位	4	質問者	高橋江海子 議員	
件名	項目	要旨		メモ
1. 市民生活行政	1. 不法投棄禁止条例の制定について	1. 環境省が全国 1741 市町村を対象に行ったポイ捨てに関する調査では、ポイ捨ての根絶を目的に禁止条例を設ける自治体が北海道内では 30% を超えている。また、ポイ捨て禁止条例を設けている全国 1080 市町村のうち、罰則規定を設けている市町村は 508 市町村であった。本市でも罰則付きの禁止条例を制定し、市民全体で環境美化を推進すべきと思うが、見解を伺う。		
	2. 喫煙所の設置について	1. 依然として路上喫煙者や公園喫煙者も多く、分煙になっていないため非喫煙者からは不満の声が上がる一方で、喫煙者からは税金を納めているのに吸える場所がなくて困るという声も聞く。 それに加えてたばこのポイ捨てにより、周辺に対して悪影響があるため、マナーやモラルの向上のための啓発活動の推進しながらも、喫煙者と非喫煙者の共存の道を模索すべきと考える。 税率改正を受けて増えた地方たばこ税の一部を使い、公共の場に喫煙所の創設を検討すべきと思うが、見解を伺う。		
	3. LGBT への理解の促進について	1. 8 月にパートナーシップ制度へ向けての職員勉強会が開催された。今後、市民向けの LGBT の方々による講演会も予定されているが、市民全体の LGBT への理解を促進するなかで、子ども達への啓発も必要である。 性教育や道徳等の普段の授業の中での積極的な取組みに加えて、当事者を招いた講演会を組むべきと考えるが、見解を伺う。		

質問順位	4	質問者	高橋江海子 議員	件名	項目	要旨	メモ
				2. 教育行政	1. 子ども達の心身の健康と安心、学習環境を守ることについて	<p>1. 身体的成長過程にある小中学生の生理不順は自然であり、学校生活において突然やってくる生理は子どもにとって不安材料でしかない。吐き気や腹痛などの痛みを抱えながら、生理用品をもらいに保健室まで行くことも大変だが、生理がきいていることを周りの子どもに察知されることも思春期の子どもにとっては苦痛であり、生理による様々なストレスが原因で不登校になってしまう事例もある。</p> <p>学習環境の整備の観点から排せつに必要なトイレットペーパーと同じように学校のトイレの個室に生理用品を配置することが望ましいと考えるが、見解を伺う。</p>	
					2. 生理痛の程度は人によって様々だが、何らかの治療が必要となる場合がある（子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣の嚢胞、子宮の炎症やポリープなど）。	<p>しかし、勉学や部活動に支障をきたす程の生理痛でも毎月市販薬だけで我慢している子どもの方が多く、そもそも知識不足により病院に相談する発想がないという現状がある。</p> <p>1889人の成人女性を対象に今年6月に発表されたNHKの調査によると、1303人が生理に重い症状があるにも関わらず受診についてためらっているとされ、その原因是生理についての知識不足によるものであることが分かっており、また、1201人を対象とした今年3月に発表された調査では、男性側から「学校で正しい知識を教わりたかった」といった趣旨の意見が多くみられた。</p> <p>快適な学習環境を守るとともに、将来不妊や婦人病に悩むことのないように、性別を分けずに子ども達みんなが生理に対して理解を深めることが大切である。</p> <p>「ひどい生理痛は病院へ」等、トイレの個室の掲示などでも積極的に啓発すべきと思うが、見解を伺う。</p>	
					3. 過日、総務文教常任委員会及び厚生常任委員会から熱中症対策にかかる要望書が提出されたところであるが、実際に小中学校に冷房設備を設置するには、時間も予算もかかることが想定される。そのため、早急に命を守る暑さ対策として、本州の学校と同じように夏季休業と冬季休業の期間を逆にするなどの対応をしてはどうかと考えるが、見解を伺う。		